

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10161001				
授業名	リハビリテーション論	形態	講義	単位	2
担当教員	室井 大佑				
開講学期	2025年度 前学期	曜日・時限	金曜1限		
授業目的	保健・医療・福祉を中心に、今日のリハビリテーションに関わる様々な問題を体系的に学び、「リハビリテーション」という概念が持つ広い意味を理解・習得すること目的として、リハビリテーションのさまざまな側面をテーマに授業を進める。				
授業内容	本科目では、リハビリテーションの観点から障害者・高齢者における諸問題と現代的なリハビリテーションの概念と方法論について網羅的に概説する。授業は講義形式として、リハビリテーションの定義、国際生活機能分類に基づく障害構造、我が国におけるリハビリテーション医療の流れを中心に解説する。また、リハビリテーションの対象となる代表的な疾病については事例を通して、その方法論および福祉用具や住宅改修など環境支援についても解説する。				
到達目標	①リハビリテーションの概念と基本的な流れを理解する ②障害者・高齢者を取り巻く医療・福祉従事者の役割について説明できる ③リハビリテーションの対象となる代表的な疾病について、その特徴と対策法を理解する				
ディプロマポリシーとの関連性	<教DP2-(1)> 人が成長すること・支え合うことに関する基本的かつ体系的な知識・技能及び態度を身に付けている。 <教DP2-(2)> 学校教育や児童福祉、健康教育に係る免許・資格などの専門性や協働的実践力を修得する。				
授業形態	基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用して授業を実施する。また学生の質問、意見を求め、ともに考え理解を深めていく双方向の授業展開にする。この授業は受講全員の参加型授業形態である。 非常勤講師として、「リハビリテーション論」を担当し、18年間の理学療法士としての実務経験を活かして、実際の病院内の他職種の役割や連携、さらに障害者への接し方のポイント等を講じている。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 詳細は以下のURLをご参照ください。 https://www.shukutoku.ac.jp/extra/pdf/chiba2025jitsumukyoin.pdf （【千葉キャンパス】2025年度 実務経験のある教員一覧）				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。 合計15回の授業で、事前事後学習60時間となる。				
テキスト	授業時でプリントを配布する				
評価方法	各回の講義の最後に小テストを実施し、15回目で実施するまとめの試験と総合して評価する。				
評価基準	小テスト50点、まとめの試験50点、合計100点満点				
試験・レポート等のフィードバック	授業内小テスト（小テスト内のレポートも含む）の結果は、次の授業で返却・解説を行う。また、まとめの試験については、試験後に要点について解説を加える。				
注意事項及び履修条件	講義内容を十分に理解するために、予習・復習、授業時間内の質問・発言を積極的におこなうこと。				

S : 100～90、A : 89～80、B : 79～70、C : 69～60、D : 60未満

第1回	
事前学習	シラバスを確認し、授業内容・目的・達成目標を十分に把握しておく。
授業内容	本授業における内容・目的・到達目標を確認し、講義の進め方および採点方法に関して説明を行う。「リハビリテーションの理念」について、歴史的経緯を含めて全体概要を概説する。
事後学習	講義内容に関して、配布された資料に基づいて要点を整理する。
参考文献	

第2回	
事前学習	配布資料読んで、リハビリテーションの概念について確認し、質問事項としてまとめておくこと。
授業内容	リハビリテーションの目的について、近代における概念の変遷を解説し、併せて事例を通して具体例を提示する。

事後学習	学習用に提示する事例に対して、リハビリテーションの目的を整理する。
参考文献	砂原茂一：リハビリテーション（岩波書店）
第3回	
事前学習	リハビリテーションの範囲について、配布資料を事前確認し、質問事項をまとめておくこと。
授業内容	教育的・医学的・職業的リハビリテーションの役割りと実際について、事例を交え概説する。
事後学習	講義内容を踏まえ、教育的・医学的・職業的リハビリテーションの目的と相互関係についてまとめる。
参考文献	
第4回	
事前学習	リハビリテーションの対象について事前に調査し、対象者の属性（主疾患等）について確認しておくこと。
授業内容	リハビリテーションの対象に関して、対象となる疾患・障害に関して網羅的に解説する。
事後学習	リハビリテーションの対象および各疾患・障害におけるリハビリテーションの要点をまとめる。
参考文献	
第5回	
事前学習	WHO(世界保健機関)におけるICF(国際生活機能分類)の概念について事前に調査し、質問事項をまとめておくこと。
授業内容	ICFの概念を身体構造・活動・参加の側面から解説し、その因果関係および対象者への具体的な適応事例を示す。
事後学習	医療・社会福祉現場で事例に接する際のシュミレーション課題を提示する。
参考文献	
第6回	
事前学習	リハビリテーションが医療機関から始まり地域（福祉施設や在宅）に引き継がれる一連の過程について調査しておくこと。
授業内容	リハビリテーションの流れを急性期・回復期・生活期に分類し、代表疾患の事例を通して解説する。
事後学習	リハビリテーションの各時期の役割と機関をまとめるとともに、その連携に関して整理する。
参考文献	
第7回	
事前学習	リハビリテーションを実施する組織（チーム）について構成と役割をまとめ、詳細な事項について質問として整理しておくこと。
授業内容	リハビリテーションに関わるコメディカル（医師・看護師・リハビリテーション専門職・ソーシャルワーカー等）の役割と連携について概説し、併せて具体的な事例を紹介する。
事後学習	コメディカルスタッフとケアスタッフの役割と連携について整理すること。
参考文献	
第8回	
事前学習	ADL（日常生活活動）・QOL（人生の質）の用語の意味について事前に理解しておくこと。
授業内容	ADLの分類について解説し、リハビリテーション領域におけるQOLの捉え方を概念モデルに基づいて解説する。
事後学習	ADL・QOLに関して講義内容を整理し、提示された事例に対して評価すべき事項を挙げる。
参考文献	
第9回	
事前学習	脳卒中の病態や機能障害に関して事前に調査しておくこと。
授業内容	脳卒中のリハビリテーションについて事例検討を交えて概説する。
事後学習	脳卒中のリハビリテーションについて各時期ごとの目的について整理する。
参考文献	
第10回	
事前学習	脳卒中に対する機能回復のメカニズムに関して事前にまとめておくこと。
授業内容	脳卒中のリハビリテーションによる機能回復のメカニズムを事例検討を交えて概説する。
事後学習	脳卒中主たるアプローチ方法と治療に考慮すべきポイントについて整理する。
参考文献	
第11回	

事前学習	高齢者の加齢による身体の変化について事前に調査し、質問事項をまとめておくこと。
授業内容	加齢による退行変性に関して、廃用症候群を基に概説し、予防法について事例を通して説明する。また、高齢者で生じやすい骨折に関して説明する。
事後学習	廃用症候群の各症状や、骨折の分類とリハビリテーションアプローチについてまとめる。
参考文献	福井國彦：老人のリハビリテーション（医学書院）

第12回	
事前学習	認知症の症状に関して事前にまとめておくこと。
授業内容	認知症のリハビリテーションを事例検討を交えて概説する。
事後学習	認知症のタイプと主たるアプローチ方法について整理する。
参考文献	

第13回	
事前学習	福祉用具に関して、障害者・高齢者に提供される用具を調査しておくこと。また、摂食・嚥下障害に関する知識を整理しておくこと。
授業内容	福祉用具と住宅改修について制度的背景を踏まえ概観し、脳卒中患者を事例として実際について解説する。また、摂食・嚥下障害患者に対する評価やアプローチ方法について説明する。
事後学習	福祉用具の提供および住宅改修を実施する意義とその役割について、第5回講義で学んだICFとの関連からまとめる。
参考文献	

第14回	
事前学習	リハビリテーションが実施される施設（医療施設・介護福祉施設）について分類、整理しておくこと。
授業内容	リハビリテーションの時期と主な施設について、その役割、特徴、背景にある制度について説明する。
事後学習	時期ごとにリハビリテーションを担う施設について分類し、その役割を整理する。
参考文献	

第15回	
事前学習	14回の講義内容について整理しておくこと。
授業内容	まとめの試験と解説を行う なお、欠席者については、個別に対応する。
事後学習	試験に出題された内容を復習する。
参考文献	

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p><教DP-2> 【教育福祉学分野における知識・技能・態度】 教育福祉学に関する考え方や基礎知識・技能を体系的に理解し、使命感や責任感、教育的愛情をもって教育福祉的援助を実践できる能力を身に付けている。</p> <p><教DP2-(1)> 人が成長すること・支え合うことに関する基本的かつ体系的な知識・技能及び態度を身に付けている。</p> <p><教DP2-(2)> 学校教育や児童福祉、健康教育に係る免許・資格などの専門性や協働的実践力を修得する。</p> <p><教DP2-(3)> 教育や福祉のさまざまな分野で活躍し、社会に貢献しようとする意欲や態度を身に付けている。</p>
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------